令和7年4月～令和8年3月 いきものガイドウォーク（全10回） 予定と実績

月	日	担当		観察内容	写真1	写真2	コース図
4	26	芳野光夫	善宝俊文	開催日時：2025年4月26日（土） 10：00～11:04 **天候：曇り** **参加者：18名（他に子供２名）** **テーマ：新緑と初夏の花** **報告者：善宝俊文** 4月下旬にしてはやや肌寒い中での開催となった。１週間余り前の下見の時は咲いていなかったミズキは花を開いていたが、楽しみにしていたユリノキは蕾のままだった。 ＜観察したもの＞フジ（ノダフジ。右巻きであること。まだ花はまばらだった。）。ヤマボウシの花。イチョウ並木の新葉（ジュラ紀からの生き残りであること）。トウカエデの花。ムクノキの花（樹皮の特徴）。エノキの実。ヤマザクラの巨木。ギョイコウ（御衣黄）。ハナミズキ。タケ（竹の秋。タケの成長。）。マツ（この時期の剪定の仕方）。ヒメウツギなど。	 **ミズキ（ミズキ科ミズキ属）** 山地に普通に生え、日当たりの良い沢沿いに多い。 名は、春先に枝を切ると水のような樹液が多量に流れ出ることから。 枝が幹から車輪状に出て、あまり斜上せず伸びるため、樹形は独特の階段状となる。成長が早いため、ときに街路樹や公園の緑陰樹として植栽されることも多い。材は細工しやすく、玩具や器、箸などに使われる。	 **ユリノキ（モクレン科ユリノキ属）** 北米原産。世界の温帯各地で広く栽培される。 現地では60mもの大木に成り、インディアンは昔これで丸木舟を作った。 日本には明治の初めに渡来し、街路樹などとして栽培される。高さ20m。5月、枝先にチューリップに似た黄緑色の花をつける。花弁の基部は明るい 橙色。葉ははんてんのような形をしている。	

令和7年4月～令和8年3月 いきものガイドウォーク（全10回） 予定と実績

月	日	担当		観察内容	写真1	写真2	コース図
5	24	河野 満	桑原 裕則	開催日時　2025年5月24日（土） 10：00～11:15 **天候：曇り** **参加者：12名** **テーマ：植物と昆虫の関係** **報告者：桑原裕則** 桑原のガイドデビュー戦のため12名全員の1グループでガイドを行った。1週間前に下見を行い日本庭園のスイレンやコウホネが見ごろであること、多くの樹種が実をつけていることなどを確認した。　当日は、スタート地点付近にあるカワヅザクラやヤマグワ、日本庭園のウグイスカグラの実が熟し始めており、鳥散布について解説した。桑原が担当予定していたヤグルマギクは下見で満開であったが、当日はほとんど刈り取られていた。園芸種を解説対象にすることの難しさを感じた。（参加者には数本残っていたヤグルマギクで解説した） モチノキの実にモチノキタネオナガコバチが出てきた痕跡があることからモチノキとモチノキタネオナガコバチの騙しあいについて解説した。 〈観察したもの〉 カワヅザクラ、ヤマグワ、スイレン、コウホネ、ウグイスカグラ、ヤマボウシ、ユリノキ、ヒマラヤスギ、モチノキ、ヒノキ、サワラ、オオバコ、ヤグルマギク、ネモフィラほか園芸種など	 **スイレン〈スイレン科　スイレン属〉** 多年生の浮葉植物であり、地下茎から根を張り、そこから長い葉柄が生じ、浮水葉が水面に浮かんでいる。花は地下茎から生じた長い花柄の先端に1個ずつつき、水面または水上へ抜け出て開花する。基本的に雌性先熟（雌しべと雄しべの成熟をずらしてで自家受粉を避ける）であるが、自家受粉を行うものもいる。夜間に開花する種は強い匂いを発し、ふつう発熱性であり、主に甲虫によって花粉媒介される。昼間に開花する種は主にハチ目やハエ目に花粉媒介される。	 **ヤマボウシ〈ミズキ科　ミズキ属〉** 初夏を代表する花木で、花びらのように白く見える総苞片をつけて花を咲かせる。開花は近縁のハナミズキより遅く、葉が完全に開いてから白い装飾花が多数つく。花弁に見える総苞は4枚ある。街路樹・庭園樹・公園樹としても用いられ、あまり大きくならないので庭木にも向いている。果実はサッカーボールに似た感じの球形で、9月ごろ赤く熟し食用になる。	

令和7年4月～令和8年3月 いきものガイドウォーク（全10回） 予定と実績

月	日	担当		観察内容	写真1	写真2	コース図
6	28	渡辺英城	二宮靖男	開催日時：2025年6月28日（土） 10：00～11:15　天候：晴 **参加者：15名**（うち子供２名） **テーマ：梅雨空を彩る花アジサイ** **報告者：渡辺英城** ＜アジサイの系統＞ この前週まで梅雨空の日が続いていたが、この日は快晴、35℃の猛暑となった。コースはアジサイが多く見頃である日本庭園の彩翔亭に設定。高気温も予想されたので終了時間を11時目途とした。日陰のフジ棚において二宮氏のアジサイに関する説明の後、2班に分かれてガイドウォークスタート。彩翔亭を中心に植物等の観察を行い、各ガイドにて解説を行った。 ＜観察した主な動植物＞ トベラ、シャリンバイ、ウバメガシ、ネジバナ、キンシバイ、ビヨウヤナギ、リョウブ、アジサイ各種、スイレン、ハス、トクサ、タマリュウ、コクチナシ、ヤブレガサ、ヘクソカズラ、タブノキ、マヤラン（十数株）、セイヨウウツボグサ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、チュウゴクアミガサハゴロモ（外来種）など ※チュウゴクアミガサハゴロモ 新害虫として、埼玉県のHPで県内茶畑で大発生、注意喚起との報。 航空公園に入る橋のたもとのクワの実生木に成虫が多数みられました。	 学名Hydrangea（ハイドランジェア）は「水の器」の意。和名は集（あず）真藍（さあい）　別名は七変化、四葩（よひら） 梅雨空を彩る花アジサイ〈アジサイの系統〉 ○アジサイ（ホンアジサイ）　野生の基本形は「ガク型」、自然界ではまれに両性花が装飾花に変化し、「てまり」になる。これを栽培普及したものがアジサイ。葉に光沢がある。別名テマリアジサイ。 ○ヒメアジサイ（マキノアジサイ）　明月院で有名なアジサイだが、各地の公園にも多い。涼やかな瑠璃色は明月院ブルーとも。葉に光沢はない。命名は牧野富太郎。ホンアジサイとエゾアジサイの交雑種との説がある。 ○ガクアジサイ（ハマアジサイ）　漢字で書くと「額紫陽花」。両性花の周りに咲く装飾花を額縁に見立てたもの。アジサイのなかまの花姿は本種が基本タイプ。伊豆半島、伊豆諸島、三浦半島や房総の一部。四国足摺岬にも分布。海浜性植物特有の特徴、大型で、葉が厚く光沢がある。 ○ヤマアジサイ（サワアジサイ）　内陸の湿度がある山林に自生、小型で葉は薄く、光沢がないのが特徴。変異に幅、地域差大きく、花形、色合いなど魅力的な品種が多い。本州（関東以西）、四国、九州に分布。ベニガクアマチャなど多くの品種がある。	 公園などで見られるランのなかま ○ネジバナ（捩花）　ラン科ネジバナ属。公園の芝地、街中なかでも見られるラン。５月~８月頃、花は螺旋状に咲く。捩れてピンクの螺旋階段のよう。個体によって右から、左から巻くもの、なかには捩れないものもあるから、巻き方の違いを探す観察も楽しい。ネジバナは芝生の菌類と共生、菌類が作った栄養分を吸収して成長する。花軸と子房に毛が多い。花は４~５㎝、唇弁は白。ふつう５弁が淡紅色だが、白花品や緑花品もある。小さなハナバチが花粉を運ぶ「他花受粉」だが、温室などの環境では結実しないといわれる。 ＜その他＞ ○タブノキ〈今果実が緑から黒熟する時期〉タブの果実は同じクスノキ科のアボカドに似る。 また有用植物としてのタブノキ（葉・樹皮）はタブ粉として線香の材になる。 また、樹皮は黄八丈の樺色染色に用いられる。（コブナグサ（黄）、スダジイ（黒）とタブノキ（樺色）は黄八丈の三原色）	

令和7年4月～令和8年3月 いきものガイドウォーク（全10回）　予定と実績

月	日	担当		観察内容	写真1	写真2	コース図
9	27	善宝	毛利				
10	18	池田	河野	テーマ：昆虫			
11	22	久保	桑原				
12	20	松本	毛利				
1	24	芳野	渡辺	テーマ：バードウォッチング			
2	28	久保	鈴木				
3	28	二宮	佐藤				